

(出水郡東町山門野広丸)

位置と環境

遺跡は、黒之瀬戸大橋より北に約2.2km離れた標高約35m、周りを山々に囲まれた汐見川の河岸段丘状に立地する。東約1kmには加世堂古墳が所在する。

調査の経緯

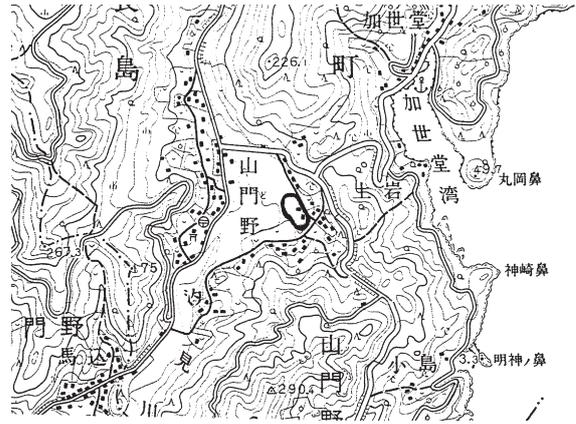
山門野地区農業基盤整備事業に伴って、町教育委員会が調査主体となり、昭和57年に県教育委員会の協力を得て、発掘調査を実施した。調査面積は450㎡である。

遺構と遺物

旧石器時代、縄文時代の石器と古墳時代の住居跡・土坑と多くの遺物が発見された。

旧石器時代では、細石刃核・細石刃・台形石器・三稜尖頭器・ナイフ形石器が表層から出土し、縄文時代では、土器はなく石鏃・砥石・敲石の石器がやはり表層から出土した。

古墳時代の遺構・遺物などが本遺跡の中心である。遺構は、3軒の住居跡と多くの柱穴が検出された。住居跡は楕円形プランで内部周囲に数個の柱穴をもつのが特徴である。床面中央部には、炉跡と考えられる焼土・炭化物が検出された。出土遺物は、2号住居跡内の土器溜まり出土のものが全体遺物の大部分を占める。土器は高坏・甕形土器・壺形土器・鉢形土器が、土器以外では砥石・敲石・鉄製品などが



第1図 山門野遺跡の位置

出土した。

特徴

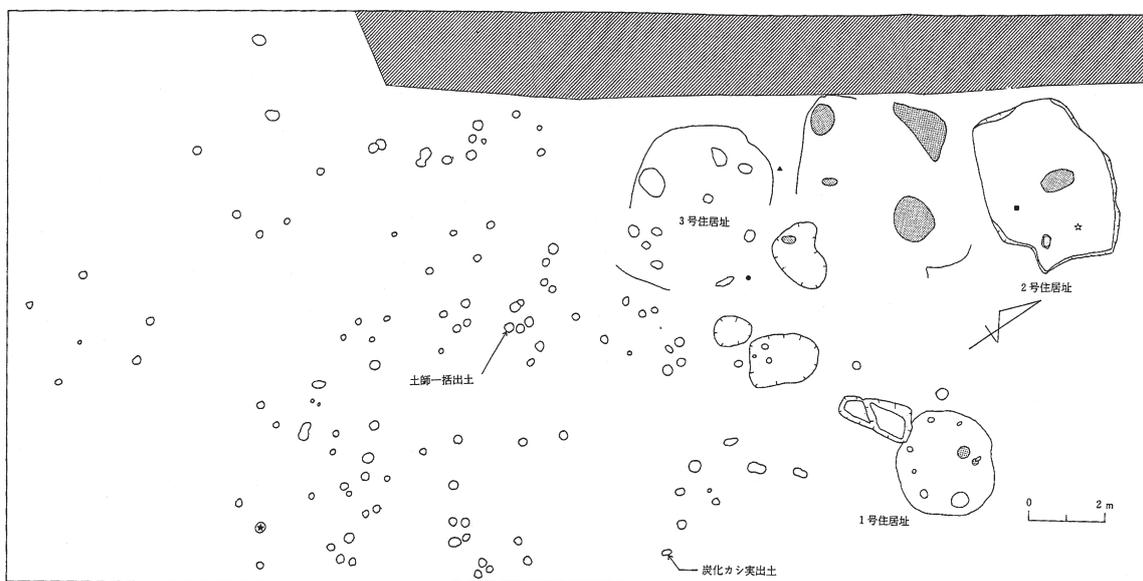
出土土器の胎土・焼成および器形は成川式土器に類似しているが、共伴遺物の中に肥後系の土器もあり、天草及び肥後に近い地理的条件に起因すると思われる形態の土器があり、南九州と肥後の関係を研究するうえで貴重であり、また、古墳の島として知られているが、生活跡が調査されたのは初めてであり、古墳との関係を知る重要な遺跡である。

資料の所在

出土遺物は、東町教育委員会で管理し、マンダリンセンター内の資料室に展示されている。

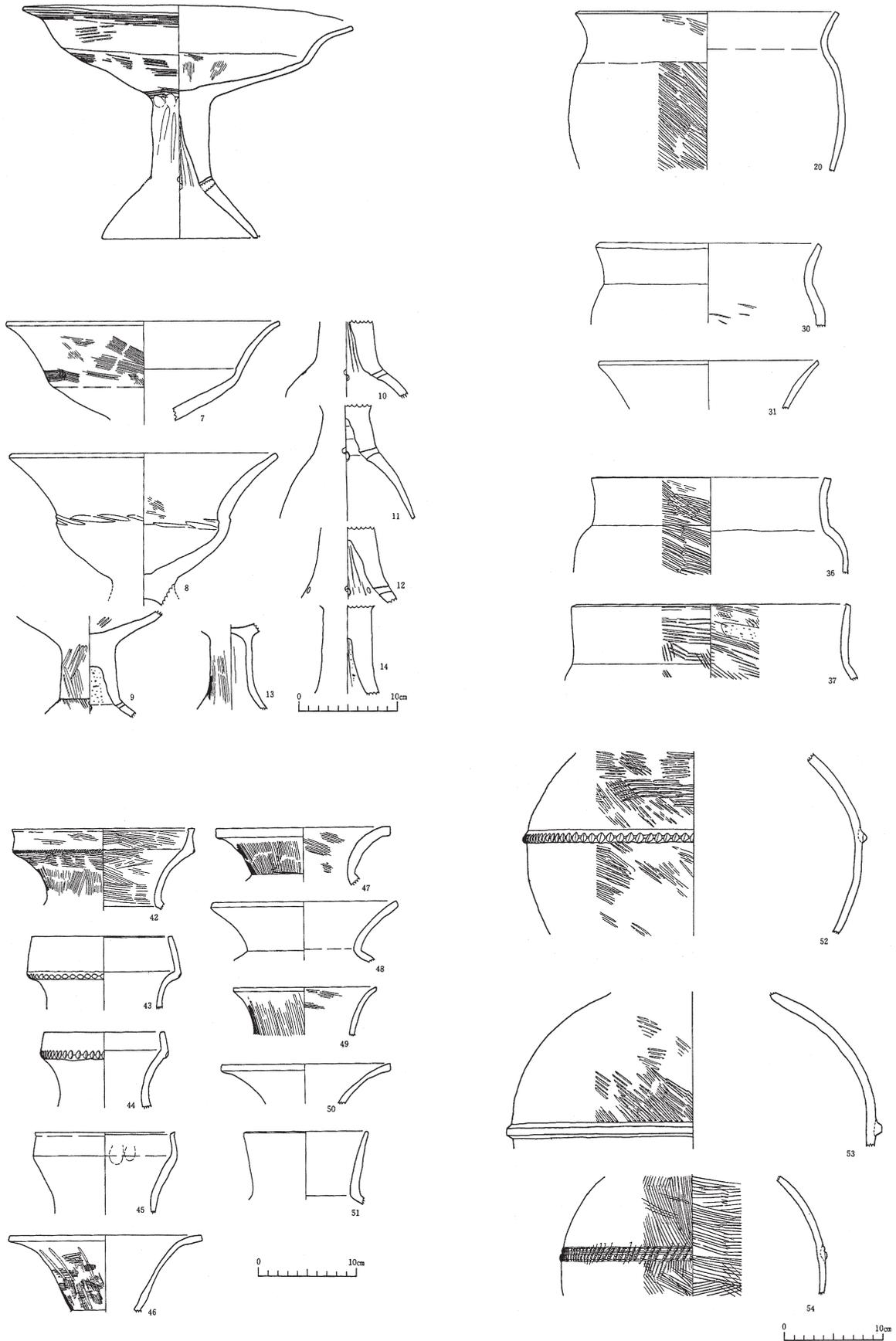
参考文献

東町教育委員会1983「山門野遺跡」『東町埋蔵文化財発掘調査報告書』(1) (牛ノ瀆 修)



〰 攪乱部分 〇 焼土・炭化物・灰
 ★ 管玉 ■ 高付(第 図) ● 砥石(第 図) ▲ マイクロブレード ☆ 鉄製品

第2図 遺構配置図



第3图 出土遺物